

検診とワクチンで予防できますー20年後の子宮頸がんゼロを目指してー

子宮頸がん

予防のための 市民公開講座

もっと、知ってほしい、女性のこと

子宮頸がん啓発キャンペーン
ティール&ホワイトリボン

9月は「がん征伐月間」。中でも、女性特有の「子宮頸がん」は、原因が明らかになり、予防ワクチン接種と検診で「予防できるがん」となった。山梨県は、全国の都道府県に先駆けて市町村とタイアップし、公費接種を推進した先進県。初年度の2010年度は助成対象の小学6年生と中学3年生が82.7%の高接種率となった。2009年12月のワクチン接種開始から、中心となって推進してきた県産婦人科医会(杉田茂仁会長)はこのほど、甲府・コラニー文化ホール(県民文化ホール)で、市民公開講座「子宮頸がんは検診とワクチンで予防できますー20年後の子宮頸がんゼロを目指してー」(山梨産婦人科医会、グラクソ・スミスクライン共催)を開催。講演やパネルディスカッションに、主婦や若い女性らが熱心に耳を傾けた。

HPV検査併用を探索

講演「子宮頸がんの基礎知識と予防方法について」

山梨県立中央病院総合
周産期母子医療センター部長 寺本 勝寛氏

子宮頸がんの発生に向けて、がん性ウイルス・HPV。性交渉によって子宮の入り口付近、HPVの感染は15種類あり、その中で特にがんになりやすい16、18型のウイルスに感染して、子宮頸がんの基礎知識と予防方法について寺本氏に講演。子宮頸がんの基礎知識として、性交渉によって子宮の入り口付近、HPVの感染は15種類あり、その中で特にがんになりやすい16、18型のウイルスに感染して、子宮頸がんの基礎知識と予防方法について寺本氏に講演。子宮頸がんの基礎知識として、性交渉によって子宮の入り口付近、HPVの感染は15種類あり、その中で特にがんになりやすい16、18型のウイルスに感染して、子宮頸がんの基礎知識と予防方法について寺本氏に講演。



寺本 勝寛氏 1977年日本医科大学卒業、日本産婦人科医会を経て、85年から山梨県立中央病院勤務。2008年から現職。日本産婦人科医会専門医、日本がん治療認定医など。

近年、日本では子宮頸がんが原因で一日7人が亡くなっているといわれています。子宮頸がんは、子宮の入り口付近に発生するがんです。原因が明らかになり、予防ワクチン接種と検診で「予防できるがん」となった。山梨県は、全国の都道府県に先駆けて市町村とタイアップし、公費接種を推進した先進県。初年度の2010年度は助成対象の小学6年生と中学3年生が82.7%の高接種率となった。2009年12月のワクチン接種開始から、中心となって推進してきた県産婦人科医会(杉田茂仁会長)はこのほど、甲府・コラニー文化ホール(県民文化ホール)で、市民公開講座「子宮頸がんは検診とワクチンで予防できますー20年後の子宮頸がんゼロを目指してー」(山梨産婦人科医会、グラクソ・スミスクライン共催)を開催。講演やパネルディスカッションに、主婦や若い女性らが熱心に耳を傾けた。

2009年度は、妊娠が分かった後、子宮頸がんが発見された。子宮頸がんは、子宮の入り口付近に発生するがんです。原因が明らかになり、予防ワクチン接種と検診で「予防できるがん」となった。山梨県は、全国の都道府県に先駆けて市町村とタイアップし、公費接種を推進した先進県。初年度の2010年度は助成対象の小学6年生と中学3年生が82.7%の高接種率となった。2009年12月のワクチン接種開始から、中心となって推進してきた県産婦人科医会(杉田茂仁会長)はこのほど、甲府・コラニー文化ホール(県民文化ホール)で、市民公開講座「子宮頸がんは検診とワクチンで予防できますー20年後の子宮頸がんゼロを目指してー」(山梨産婦人科医会、グラクソ・スミスクライン共催)を開催。講演やパネルディスカッションに、主婦や若い女性らが熱心に耳を傾けた。



タレント 向井 亜紀さん

タレント 向井 亜紀さん。子宮頸がんは、子宮の入り口付近に発生するがんです。原因が明らかになり、予防ワクチン接種と検診で「予防できるがん」となった。山梨県は、全国の都道府県に先駆けて市町村とタイアップし、公費接種を推進した先進県。初年度の2010年度は助成対象の小学6年生と中学3年生が82.7%の高接種率となった。2009年12月のワクチン接種開始から、中心となって推進してきた県産婦人科医会(杉田茂仁会長)はこのほど、甲府・コラニー文化ホール(県民文化ホール)で、市民公開講座「子宮頸がんは検診とワクチンで予防できますー20年後の子宮頸がんゼロを目指してー」(山梨産婦人科医会、グラクソ・スミスクライン共催)を開催。講演やパネルディスカッションに、主婦や若い女性らが熱心に耳を傾けた。

三つの予防策、実行必要

医学が進歩した今、子宮頸がんは①子宮頸がん検診②子宮頸がんワクチン接種③子宮頸がんの原因となる高リスク型HPVが分かるHPV検査一で防ぐことができます。45歳までの女性全員がワクチンを接種する一方、20歳を過ぎたら子宮頸がん検診とウイルスチェックを実行してください。予防注射、検診、HPV検査の三つを実行することで子宮頸がんがなくなります。ぜひ、この三つをご家族、ご親戚、お友達にお勧めしてください。



山梨県産婦人科医会会長 杉田 茂仁氏

有益なワクチン接種好調

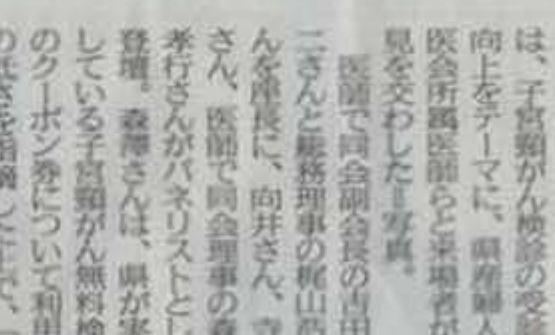
子宮頸がんを予防できる画期的なワクチンが認可されて2年弱。高額な費用がネックとなっていたが、未来を担う子ども、女性のために、山梨県は昨年、日本で初めて公費接種に乗り出しました。助成対象学年の接種率は、県が当初想定していた5割を大幅に上回る82.7%で、喜ばしい結果となりました。半面、ワクチンは100パーセントではありません。検診は必要不可欠です。検診にぜひ足を運んでください。



山梨県産婦人科医会会長 杉田 茂仁氏

周囲にも勧め検診向上を

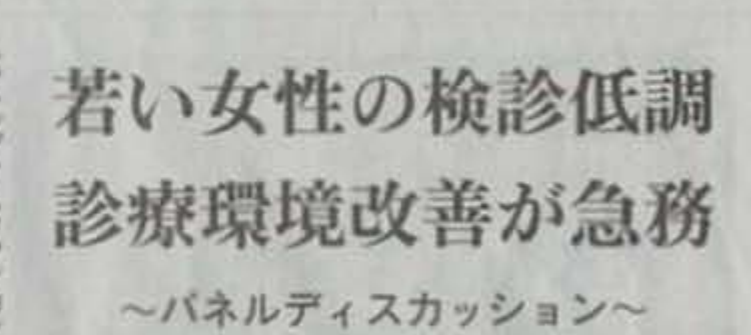
子宮頸がん死亡者ゼロを目指した活動は、ずっと昔から取り組んできました。原因が分かり、予防ワクチンもでき、ゼロも夢ではない環境になりましたが、ゼロにできない理由の一つは子宮頸がん検診を受けない女性が多いことです。山梨大学としても中央市と連携して調査に乗り出していますが、検診に来た人の多くは身近な人に勧められたからでした。大切な人を悲しませないためにも検診を受けてほしいし、勧めてください。



山梨県産婦人科医会会長 杉田 茂仁氏

若い女性の検診低調

若い女性の検診低調。診療環境改善が急務。～パネルディスカッション～



～パネルディスカッション～

来場者からもさまざまな声が上がった。20代の若い女性を持つ女性も「男性に検診を勧めたい」と思っているという。検診を受ける女性が増えることが、子宮頸がん検診の普及につながる。山梨県産婦人科医会では、若い女性の検診向上を促すための取り組みを行っている。検診を受ける女性が増えることが、子宮頸がん検診の普及につながる。山梨県産婦人科医会では、若い女性の検診向上を促すための取り組みを行っている。